

第 4 分科会

9

宮城県医師会

宮城県における耳鼻咽喉科学学校健診の現状

日本耳鼻咽喉科学会宮城県地方部会学校保健部副部長

熊谷 重城

日本耳鼻咽喉科学会宮城県地方部会学校保健部部長

稲村 直樹

日本耳鼻咽喉科学会宮城県地方部会学校保健部副部長

三好 進

日本耳鼻咽喉科学会宮城県地方部会学校保健部

沖津 卓二

日本耳鼻咽喉科学会宮城県地方部会学校保健部

渡辺 充

はじめに

日本耳鼻咽喉科学会宮城県地方部会学校保健部では毎年テーマを設定して学校保健に関わる調査・検討・対策を行っている。その結果については宮城県地方部会学術講演会、東北連合学会などで随時報告を行っている。また2008年の本大会においては、宮城県での校医の担当学校数の格差と校医報酬の格差についての報告を行った。

今回は高校生と幼稚園児に対して健診を行うにあたっての校医側の意識の違いと、健診器具の充足状況に関しての報告を行う。

目 的

・アンケート 1

例年宮城県で調査を行って自由に個別の意見を収集しているが、高校生に対する健診を不要視する意見が散見されるので、あらためて児童、生徒の年齢層によって健診を行う校医の意識に違いがあるのか調査を行った。

・アンケート 2

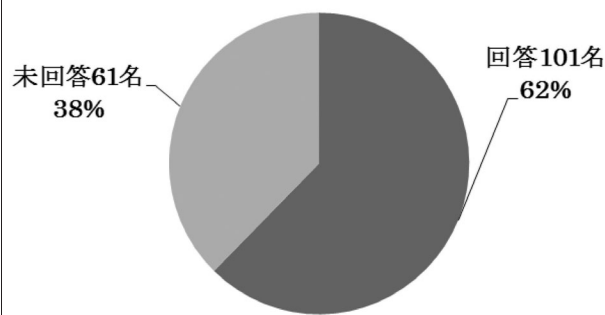
学校健診に使用する器材を、健診の現場で洗浄して再使用することが以前から問題視されていた。最近の充足状況を各校医に依頼して調査を行った。

結果・考察

・アンケート 1

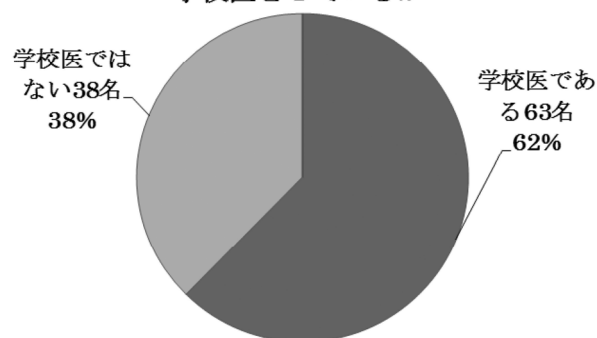
調査は2012年 6 月、宮城県地方部会会員全162名にアンケートを送付し、101名の回答を得た。

宮城県地方部会会員 162名 (2012年)

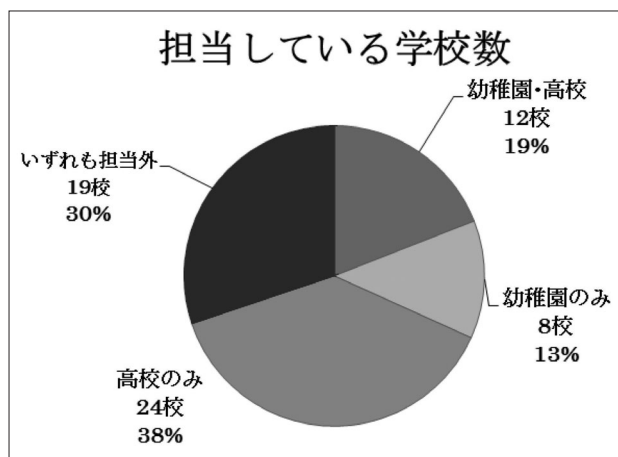


回答していただいた101名中、学校医は63名、62%であった。

学校医をしているか

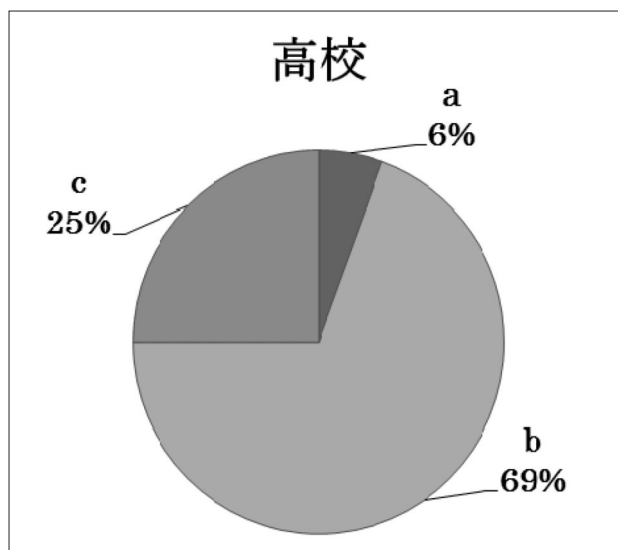
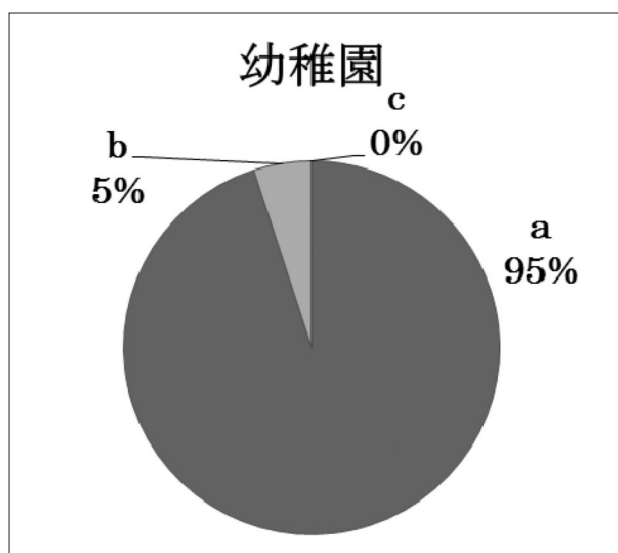


学校医63名中、幼稚園・高等学校とも担当しているのは12名、幼稚園は担当しているが高等学校は担当していないのが8名、幼稚園は担当していないが高等学校は担当しているのが24名、幼稚園・高等学校とも担当していないのは19名であった。



続いて学校健診の方法について質問した。幼稚園、高等学校についてそれぞれどの程度視診しているか以下のごとく回答を求めた。

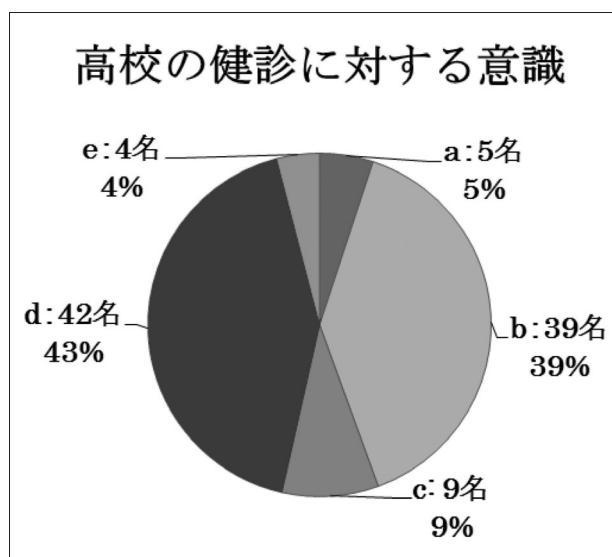
- a：全員・全器官（耳・鼻・咽頭）を視診している。
- b：抽出した被健診者・全器官を視診している。
- c：抽出した被健診者・一部の器官を視診している。



この質問では幼稚園と高等学校とでは大きな違いが表れた。幼稚園ではほとんどの校医が全員・全器官を視診していたが、高等学校では全員・全器官の視診を行っている校医はごくわずかで、ほとんどの校医が抽出した生徒のみを対象にしていた。

最後に高等学校の学校健診に対する意識を質問した。

- a：高校生の健診は低年齢児と同様必要である。
- b：高校生の健診は低年齢児ほどの重要性はないが必要である。
- c：高校生の健診は必要ではないと考えているが行うべきである。
- d：高校生の健診は必要ではない。
- e：その他。



高校生を低年齢児と同様に扱っている校医はごくわずかで、半数以上が高校の健診が不必要と考えていることが分かった。

その理由を探るため意見を収集したところ以下のように考えている校医が多かった。

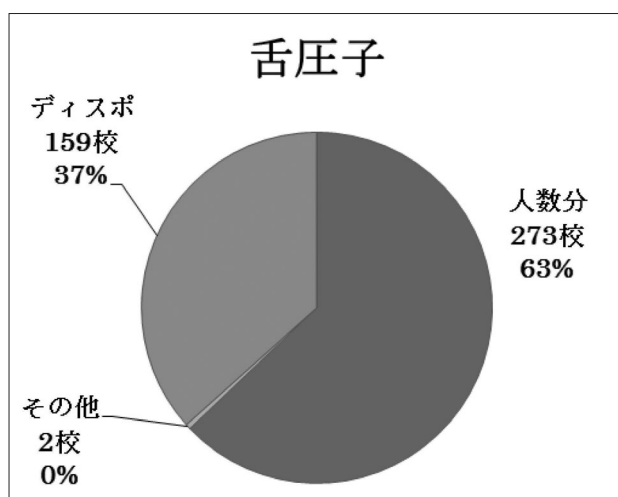
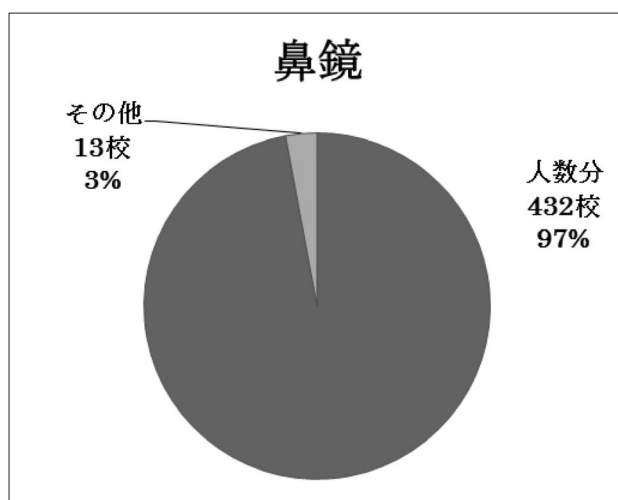
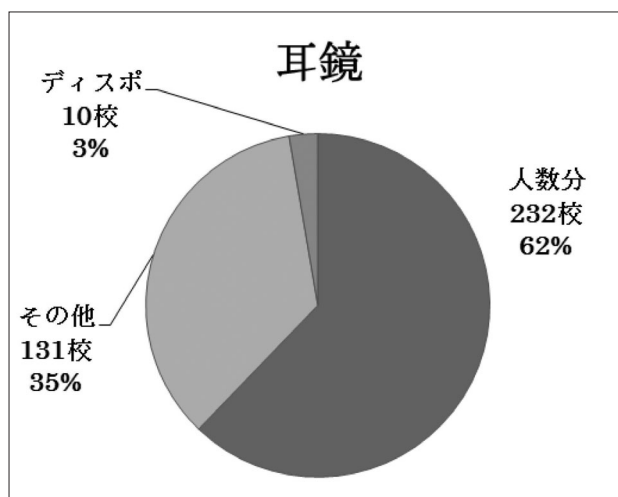
- ・健診を行っても見つかるのはアレルギー性鼻炎ばかり。
- ・アレルギー性鼻炎も含めて、他の疾患でも通知しなくても自覚症状でわかるはず。
- ・たとえ通知をしても受診率が低すぎる。親も治療に消極的。

高等学校の学校健診に消極的な意見が多い背景には、おそらく担当学校数が多い校医が多いという現状が関与しているものと考えられる。

・アンケート 2

アンケート 1 と同様の方法で2013年 6 月、宮城県地方部会会員全170名にアンケートを送付し、49名の回答を得た。今回の調査は校医を担当している会員のみが対象であったので、ほぼ80%弱の校医から回答を得たことになる。

担当している学校ごとに、耳鏡、鼻鏡、舌圧子の充足状況を回答してもらった。



鼻鏡・舌圧子についてはほとんどの学校で人数分準備されており、以前のように健診現場で洗浄して再使用するようなことはかなり解消されていた。耳鏡については人数分準備されている学校はいまだ60%程度であったが、この数字は予想したよりも高率であった。鼻・咽頭ほどの感染の危険性がない部分ではあるが、現場で消毒して再使用することが望ましくないと考えられてきているのかもしれない。アンケートに回答してもらった校医の意見でも、現場でアルコール綿で拭くだけでいいのだろうかと疑問に感じている意見もあった。今後の検討課題としたい。

まとめ

・アンケート 1

宮城県においては、高校生に対する健診に消極的な意見がかなり多く、健診に対する意識が年少児に対するものとは明らかに違いが見られた。このことは年齢による疾患構成の違いが最も大きな要因であろうが、健診の方法や校医ごとの担当学校数などの格差も関係しているものと思われる。

・アンケート 2

学校健診に使用する器材に関しては、耳鏡以外はかなり充足しているということがわかった。今後は耳鏡の扱いを検討課題としたい。